

『Shantti』通巻276号 2014年7月1日発行
1985年6月28日 第二種郵便物承認

(1・4・7・10月の1日発行)

Shantti

Shantti

276 2014年7月
なつ

ミャンマー
わたしたちの
第一歩

長

く軍政に閉ざされてきたミャンマーですが、

2011年にテイン・セイン大統領が就任して以来、

軟禁されていたアウンサンスーチーさんが釈放されるなど、

民主化の動きは、私たちの予想を超えて進んでいます。

日本とミャンマーの間には、第二次世界大戦時、

イギリスの植民地だったミャンマーへ

日本軍が攻め込むという

悲しい歴史がありました。

多くの民族が互いの多様性を認めあい、

平和な国を築いていきますように。

Index

ミャンマー、2016年 目次

4 定点観測…アジアから

カンボジア ラオス ミャンマー（ビルマ） 難民キャンプ
アフガニスタン／ミャンマー／岩手 気仙沼／山元

12 特集 ミャンマー

わたしたちの第一歩

PI事務局の開設、PI事務所のある町を歩いてみよう
ミャンマーってどんな国？
鼎談「いよいよ ミャンマーへ」ブックガイド
コラム「タイ国境地域のいま」

25 日本しゃんていな旅 知行院

世界の絵本を読んでみよう

民話絵本「イヤック・ラオム池」カンボジア

28 シャンティな人たち

糸賀一隆さん・大野道輝さん（いすも重典）

30 スタッフの聲ごはん ミャンマー事務所

おしらせ／編集後記

32 道 ミャンマーの文化に学び、ともに成長する 神津佳子

「ポータウンバゴダ」ヤンゴンにあるバゴダ。
釈迦の聖髪と伝わるものなど、数多くの遺品が収められている。



ルアンパバーン県ヴィエンカム郡の教育改善を、一緒に

ラオス **Laos**

報告：山室仁子 (ラオス事務所)

「私はこの郡の出身で、郡教育局に18年勤めています。長年この郡の教育は国の水準よりも低い状態が続いていました。校舎の状態は悪く、親の仕事の手伝いを優先するために学校に来る児童も少なく、教員も学校にきちんと来ない、といった状況でした」。ヴィエンカム郡教育局のソンボン・スラボンさん(写真中央)が、完成した小学校の6ヵ月後調査で語ってくれた話です。

「近年、親の世代に識字教室などを開き、教育の重要性についての理解が少し増したように思います。そういった中で、シャンティが私たちと一緒に学校建設をしてくれました。安全な校舎ができ、子どもたちが学校に通うようになり、親や教員の意欲も上がっているようです」。

「これからもヴィエンカム郡の教育が改善していくよう、シャンティと一緒に頑張ります。私の願いは、この郡が、県で一番の教育を子どもたちに提供できるようにすることです」。

「一緒に」という言葉が印象的でした。



字が読めないとパソコンを動かせないって気づいたみたい

報告：江口秀樹 (カンボジア事務所)

カンボジア **Cambodia**

「どうしてこんなものを買ってきたのか」。夫の留守中にチャン・ティさん(写真)はつぶやいた。彼女は、コンポントム州の地域学習センター(CLC)建設地の向かいに住んでいる。

農業で生計を立てているが、乾季には仕事がない。二人とも小学校一年生で中退し、読み書き・計算ができないため、村の近くで仕事を得られない。彼女は定期的にプノンペンに出稼ぎに出ている。

最近、タイから出稼ぎの夫が帰ってきた。2カ月の肉体労働で、村の稼ぎの数を稼いだらしい。しかし、その稼ぎで彼が買ったきたのが、「パソコンとスピーカー(右の棚)」だった。村でインターネットカフェを開くつもりで買ったらしいが、ほこりを被っている。「買ってから、字が読めないとパソコンを動かせないって気づいたみたい」。

彼は地域学習センターで開催される識字教室を待ちわびている。「また、プノンペンに出稼ぎに行かなくっちゃ」とチャン・ティさんはあきれ顔である。





子どもの笑顔のために「読書ボランティアおはなしころりん」

岩手 Japan

報告：三木真牙（岩手事務所）

「おはなしころりん」は活動を開始して12年、31人のメンバーを擁して小学校や図書館での読み聞かせ活動する、大船渡市内で知られた団体です。

東日本大震災後は助成金などを獲得し、移動子ども図書館活動・仮設団地内での読み聞かせ講習会など、絵本と読み聞かせを中心とした復興支援活動を展開しています。2013年度は（公財）伊藤忠記念財団の支援により、シャンティの「絵本を届ける運動」を大船渡市の小中学校で実施しました。

代表の江刺由紀子さん（写真は「おはなしころりん」の事務所に）は、「全ての活動の目指すところは読書を通じて地域の人が元気になる事、子どもと大人の交流が促進されコミュニティが再生されること」と語ります。「だから、2011年に生まれた子の義務教育が終るまで復興支援を続けたい」と、強い思いを述べてくれました。

移動図書館活動を行っている団体同士で情報共有・連携を進めています。大船渡で活動をする大先輩に岩手事務所も学びながら共に進んでいきたいです。



大きな家族の寺院小学校

報告：本丸愛子（ミャンマー事務所）

ミャンマー Myanmar

「悩みは、シャン州から来てすぐの子どもたちが私たちの話すミャンマー語が分からないこと。そうした子たちのために、まずミャンマー語の特別授業を行っています」。26歳の女性教員が教えてくれました。

ミャンマーの公立学校では学費は無償ですが、実際には制服代などを負担する必要があります。貧困世帯の子どもたちはなかなか学校へ通えません。そうした子どもたちの受け皿として寺院が学校を開いています。

ミヤティンギ寺院小学校は64人の子どもが住む孤児院が併設された尼僧学校です。シャンティは2014年度、このミヤティンギ寺院小学校を含めた2つの学校と孤児院の建設を支援します。

ミヤティンギ寺院小学校には、紛争と貧困問題が続くシャン州からも小さな子どもたち（写真）が送られてきます。言葉も分からず親元を離れた小さい子ども、優しい先生やお姉さん、妹たちに囲まれ、徐々に新しい環境に馴染んでいきます。仏教精神に沿った寺院小学校は、まるで1つの家族のようです。





新しい「我が家」まで、もう一息!

報告：白鳥孝太（気仙沼事務所）

気仙沼 Japan

「不安の中でも多くの人に支えられて、ここまで来ました。家を建てる日が待ち遠しい」登米沢地区の「防災集団移転協議会」三浦康成会長（写真右）の竣工式での挨拶です。

シャントイでは2011年末から、同協議会のお手伝いをしてきました。津波で「我が家」を流された6家族11人は、高台移転を模索して来ました。地権者との交渉や、宅地と道路の設計や土地造成デザインの確認など、専門知識や経験がない中でも、手探りで取り組んで来ました。

協議会結成から2年6カ月、幾度も話し合いがもたれて、私たちも一緒に悩むことの連続でした。

シャントイでは建築士（写真右から3人目）や専門家（写真中央）を招いて、共に勉強しながら支援しましたが、この登米沢地区では、気仙沼市内でも最初に造成が完了（写真）し、竣工を迎えました。今後は、それぞれに「我が家」を再建して行くこととなります。これまで多くの方に支えて頂いた成果のひとつが、蓄をふくらませています。



ボランティアさんとの出会いは宝物

山元 Japan

報告：古賀東彦（山元事務所）

「今日もまたいちばん嫌な時間が来ました」。そう言うのは、山元事務所の移動図書館車のドライバー、齋藤敏明さん（写真の男性）。移動図書館の運行を定期的に手伝いに来てくれる、ブックオフグループのボランティアとともに、その日の活動を振り返るミーティングの場で、齋藤さんは照れたような笑顔を浮かべ、決まって「嫌な時間 came」と言います。

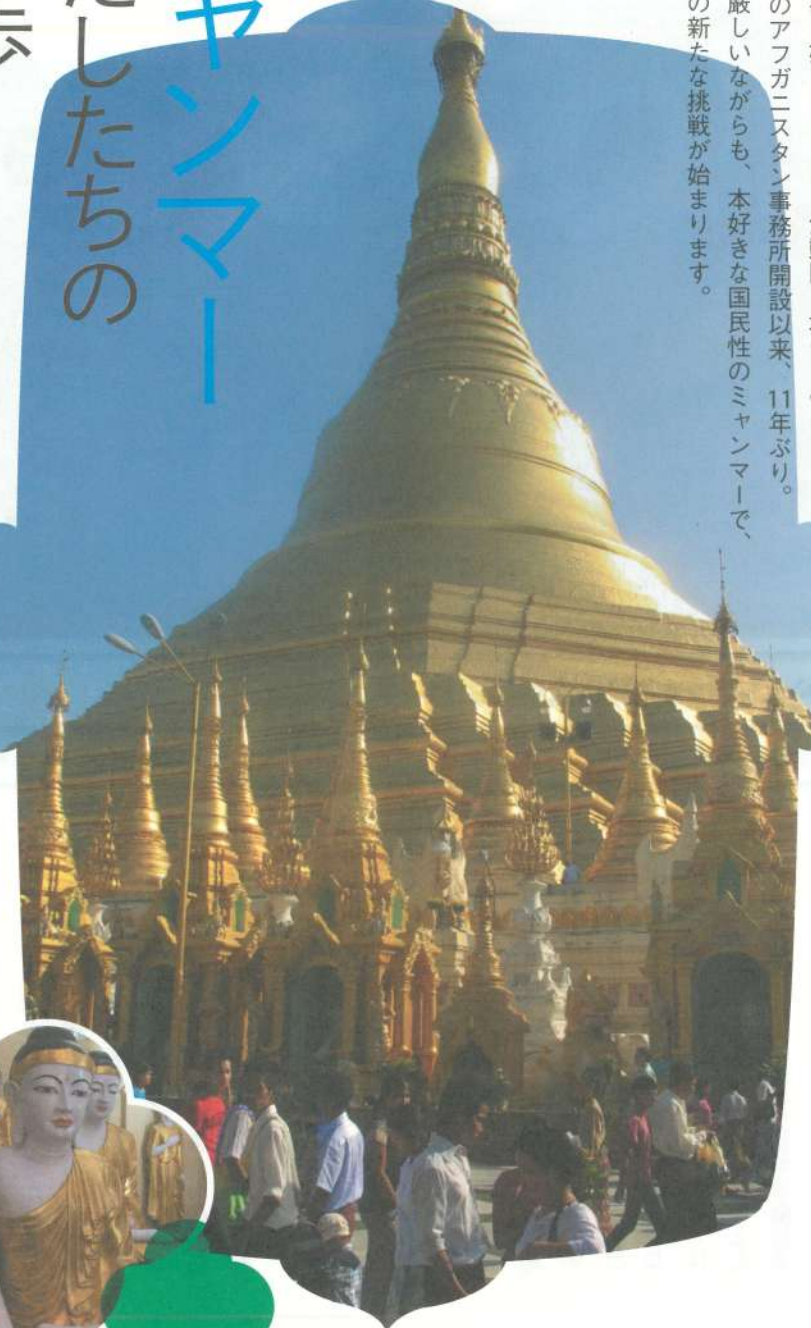
齋藤さんも3月11日の大津波で家ごと流され、多くのお知り合いを亡くしました。「生かされた命、仮設の人のためになるなら手伝いますよ」とドライバー役を買って出ってくれました。その人のまわりに自然と人の輪ができる。齋藤さんはそんな人で、一泊二日のボランティアプログラムの中で、一日目は山元町の被災場所・復興場所を回ります。その案内も齋藤さんの重要な役回り。「ボランティアさんとの出会いは私にとって宝物。今回も宝物が一つ増えた。そう思うと今日も安らかな気持ちで眠れます」と齋藤さん。だから、別れが近づくと振り返りのミーティングが嫌なのですね。

金色に輝くシュエダゴン・パゴダ
はヤンゴンの代表的なシンボル

3月に事務所を開いて、ミャンマー人スタッフも加わり、
いよいよ事業が始まりました。活動国を増やすのは、
2003年のアフガニスタン事務所開設以来、11年ぶり。
経済状況が厳しいながらも、本好きな国民性のミャンマーで、
シャンティの新たな挑戦が始まります。

特集

ミャンマー わたしたちの 第一歩

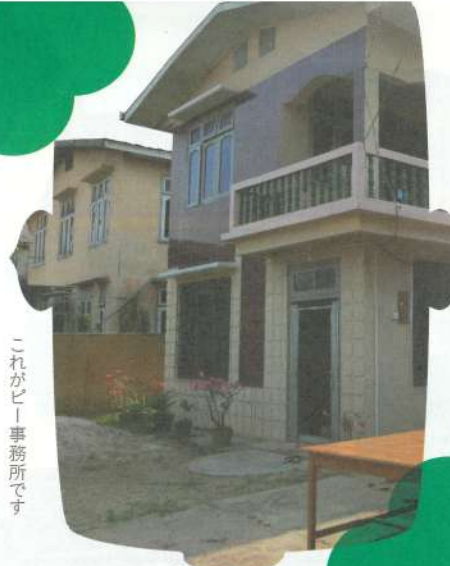


支援を予定している孤児院を訪ねまし
た。この子たちが安心して暮らせるよう
な建物を新築します。

「ミャンマー語の看板も完成
しました」と中原亜紀所長



借りた建物を事務所として
使えるように修繕しました



これがピー事務所です



ヤンゴンから調達し
た事務所机なども
無事到着しました



赴任した3月は暑季の始まり。
4月に入ると暑さは更に増し、
体力の消耗が激しかったです。事
務所を開設したピー県は内陸部に
位置しているためヤンゴンより気
温が高く、45度近くまで上がる日
もあり、毎日が体力勝負です。
3月31日にピー事務所を開設。
まだ全てが整ってはいないのです
が、ファミリーとして新たに加わ
ったミャンマー人スタッフと共に
ようやく最初の一步を踏み出した
気持ちになりました。

初年度はピー県を中心に6つの
公共図書館支援、寺院小学校や孤
児院の建設などを行います。関係
者の皆さんもとても協力的でシャ
ンティの活動を心待ちにしてくれ
ています。ただなかなか予定通り
には物事が進まず、苦戦している
日々でもあります(笑)郷に入れば
郷に従えの精神が必要だと感じ
ています。
(中原亜紀)



時計台のある建物は1950年頃に建てられた私営図書館。町の中心に位置し、現在も人々が頻繁に利用しています。手前はサイカー(自転車)で荷物を運ぶ男性



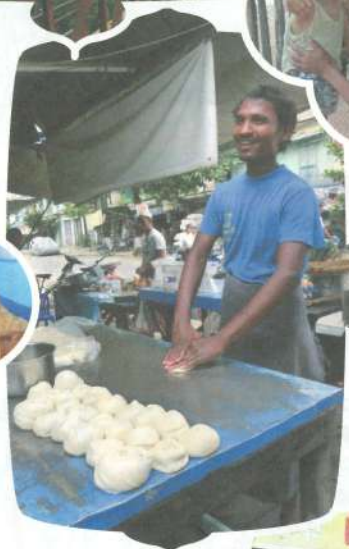
朝ごはんは喫茶店や軽食屋さんでとる人が多いです。このお兄さんが食べているのは、朝ごはんとしてポピュラーな「モヒンガー」(米麺にナマズスープをかけた麺)



事務所近くの軽食屋さん。作っているのはタミン・トゥ(ご飯、野菜、豆腐のサラダ)



ピーの町は、雄大なイラワジ川のほとりにあります。心が落ち着く景色です



ミャンマー人の赤ちゃんとお母さん。笑顔がまぶしいですね



事務所近くの夫婦で営んでいる貸し本屋さん。1冊は1日につき50〜300チャット(約5〜30円)。商売にはならないが、ミャンマー人は本が好きなので、趣味を兼ねて行っているとのこと。夜9時くらいまで営業しています

本丸愛子です



町にはいろんな場所にサモサ屋の屋台があります。ムスリムのお兄さんが慣れた手つきで手早く生地を折りたたんでいます



ピーにはミャンマー三大パゴダのひとつ、「シュエサドー・パゴダ」があります。仏陀の頭髪が納められていると伝えられていて、夜には美しくライトアップされます

ピー事務所のある町を歩いてみよう

ピー県はヤンゴンの北西約300キロにあるバゴー地域にあります。内陸でヤンゴンよりもかなり気温が高い地域です。インフラが十分に整備されていないこともあり、暑さのせいで停電も多いです。ピーの町に住む人、お店の様子を、本丸スタッフがご案内します。



事務所近くの八百屋さん。朝に新鮮な野菜、肉、魚などを販売しています



紀元2世紀建てられたといわれる事務所近くの仏塔「ミンパンスーテ・パゴダ」。早朝6時頃から読経が流れます



イラワジ川沿いにある「シュエパリンミョー・パゴダ」。鎮座する仏像に向かって祈るおばあさん

ミャンマー ってどんな国？



6世紀古代王朝時代から18世紀ビルマ族によるコンバウン王朝時代まで、他の民族の王朝との間で覇権争いを繰り返す。



1886年 イギリスとの間で3度の戦争(1824, 1852, 1885年)に敗れ、植民地化される。



1941年 第二次世界大戦下、日本軍がビルマに進出。反英運動の中心人物アウン・サンは日本と手を組むが、その後、反日蜂起する。



1948年 ビルマ連邦共和国としてイギリスから独立。翌年、カレン族の反乱始まる。

1962年 ネ・ウィン将軍による軍事クーデター。以後、長期軍事政権が続く。

1988年 市民による大規模な民主化運動があったが弾圧される。

1989年 国名をビルマからミャンマーに変更。その後2010年まで、高まる民主化運動の弾圧を繰り返し、一方では少数民族との武力紛争を繰り返す。



2010年 2008年の国民投票で創られた新憲法に基づいて行われた総選挙を実施。

2011年3月 テイン・セイン大統領就任。軍事政権から民政に移行し、メディアに対する段階的な規制の緩和、テイン・セイン大統領と民主化運動の指導者アウンサンスーチーの会談、政治犯の解放など、民主化に向けた前進と見られる動きを進める



2012年4月 補欠選挙でアウンサンスーチーが議長を務める政党「国民民主連盟」が圧勝



政治

軍政下で民主化運動と少数民族への弾圧が長く続きましたが、2011年3月、民政に移行。一部の少数民族・反政府武装勢力とで停戦合意が進みまし。一方でカレンなどの少数民族・武力勢力との対立は依然として続いています。2015年の大統領選挙、総選挙が注目されます。

経済

長く続いた軍事政権と欧米諸国による経済制裁の結果、東南アジアの経済発展から取り残されてきました。一人当たりGDPは834USDですが、2011年の急速な民主化に伴い外資の流入が続いています。2011年度に53社だった日系企業は2013年度には133社に急増しました。主要産業は農業ですが、豊富な天然資源を内蔵しています。

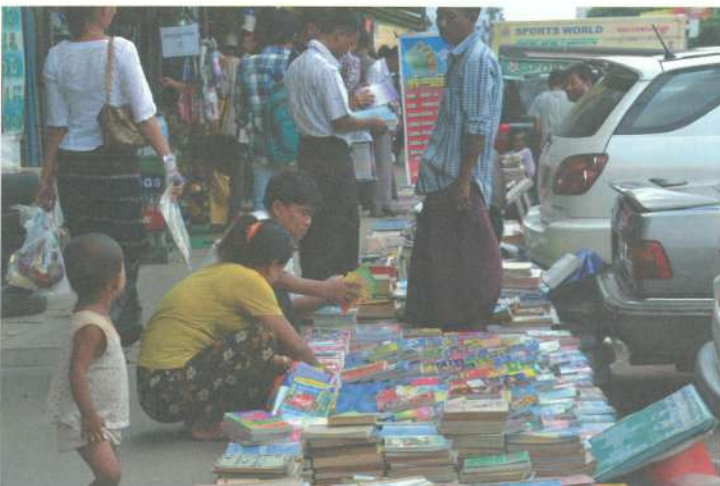
社会

南北に長く伸び、日本の1.8倍ある国土に、日本の半分ほどの人口が住んでいます。135を超える民族が住むと言われる多民族国家ですが、その7割をビルマ族が占めています。中国やタイ、インド、バングラデシュとの国境沿いには、カチン、シャン、カレン、ロヒンギヤなどの少数民族が居住する州があり、ビルマ族政府との対立・紛争が続いてきました。その結果多くの国内避難民を生み出し、人々は劣悪な環境下で生活しています。紛争の犠牲者となる少数民族の子どもたちや、貧困のために学校に行けない子どもたちの数は、民主化された現在も減少することはないと、民族対立・宗教対立・貧富の差の拡大はミャンマーの大きな課題となっています。

Myanmar
ミャンマー連邦共和国

公用語	ミャンマー語
首都	ネービードー
面積	678,500km ² (日本の約1.8倍)
人口	6,367万人(2012年IMF推定値)
GDP	一人当たり834USD(2012年IMF推定値)
通貨	チャット(K)

「つよつよミャンマーへ」



ヤンゴン市内のあちこちで本を売っているのを見かける

30年前のカンボジア難民キャンプでの活動以来、ずっとインドシナ情勢を見つめてきた八木沢アジア地域ディレクター。調査と事業立案に携わった三宅と、赴任直前の中原所長が、八木沢とミャンマー支援について語りあいました。

▼鼎談メンバー



八木沢克昌
アジア地域ディレクター
(タイ駐在)



中原亜紀
ミャンマー事務所長



三宅隆史
アフガニスタン事務所長

そもそもミャンマーを支援しようとしたのは…

八 1980年代にミャンマーで大量の難民が国境地域に生まれ、1990年代初頭、すでにシヤンティは難民たちの食糧支援に関わっています。貧困や人権侵害、国内は極めて悲惨な状況にあるという事はずっと認識していたので、2000年に難民キャンプの事業を始めた当初から、「次はミャンマー本国だろう」という思いを持っていました。インドシナ半島周辺でもっとも問題が深刻な国なので、そこから、仏教国でもあり、

「アジア子ども文化祭」(国や民族を越えて、伝統文化を維持・継承していくことを目的にシヤンティが開催したイベント)を通して、教育省と4回接触を持ったことがあるという要因が重なっていたからです。

三 2007年にカレン州で図書館支援の可能性調査をしたとき、当時の情報省情報広報局長はシヤンティの受け入れに積極的だったのです。しかし、当時の政情では、軍事政府にとっては反政府勢力であるカレン人難民を支援している団体が本国で活動するなどありえないことでした。そのと

きのご縁がいま芽吹き始めていると感じています。当時の情報文化局長が現在では情報省副大臣になられているのですから。
八 1982年から毎年のように訪問し、タイで知る国内避難民の状況と300万人といわれる出稼ぎ労働者の問題を見ていて、本国が変わらないとどちらも解決しないと思っていました。サイクロン・ナルギス災害救援の際には、シヤンティの役員であるという理由でビザがおりなかったの

で、現在の民主化の動きは、大統領と体制が替わるとこんなにも変わるのかと、感慨深いと思います。
三 カンボジアからアフガニスタンまで、今までの事業は和平交渉ができて難民が自主帰還をし、それを国際社会が支援する段階で始めています。しかし、ミャンマーはこれから自主帰還が始まる

バランス感覚を大事にしていく必要があるかと思っています。
八 国内政治はセンシティブな問題なので、バランスを取りながら、慎重に現場の経験と情報に基づいた発信をしていくべきです。
ミャンマーでの事業はどう考えて決めたのでしょうか。より厳しい環境におかれた子どもたちの教育支援として、寺院小学校の校舎建設と教員研修を行いますね。

貧困の子どもたちでも教育を受けられる点が重要なのですが。
八 18世紀には日本の寺子屋にあたる寺院学校がおかれ、教育を担い、コミュニティセンターの役割も果たしていました。都市と地方の格差はミャンマーでも大きく、地方では建物はボロボロ、教員の質も良くなり、本当に劣悪な環境。ここで、シヤンティの果たすべき役割は大きいです。

「アジア子ども文化祭」(国や民族を越えて、伝統文化を維持・継承していくことを目的にシヤンティが開催したイベント)を通して、教育省と4回接触を持ったことがあるという要因が重なっていたからです。
三 2007年にカレン州で図書館支援の可能性調査をしたとき、当時の情報省情報広報局長はシヤンティの受け入れに積極的だったのです。しかし、当時の政情では、軍事政府にとっては反政府勢力であるカレン人難民を支援している団体が本国で活動するなどありえないことでした。そのと



寺院が運営している孤児院では、貧困や紛争で親を亡くした子どもたちが育てられている

「1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペン、それで世界を変えられます」という言葉を、目の当たりにする思いがしました。

三 学校に行けなかった10から14歳の児童が2年間で終了するように作られたカリキュラムで、良くできています。教員が地元住民であり、児童が親しみをもち、信頼しているのも良い点です。環境を整備すれば、働く子どもへの学びはもつと進むと期待できるので、夜間小学校の支援を決めました。

ミャンマー人は読書意欲が高いと聞きましたが。

八 寺院学校での教育の普及、識字率の高さ、中世からの優れたビルマ文

学の伝統があるので、農村の市場でも古本を売っているくらい、ミャンマー人の読書意欲は高く、ポテンシャルが高いといえます。アウンサンスーチーさんも移動図書館に関心を持っているほど、本が好きな国民性なんです。これからが楽しみです。

その国民の要望に応える形ですね。図書館の現状はどうでしょうか。

中 私も道路に椅子を出して読書している人の多さに驚きました。他の国ではあまり見られない光景ですね。最低限の基盤が整っているだけですが、公共図書館が存在します。ただ、児童サービスがほとんど行われていないので、図書館員育成は重要

な取り組みですね。図書館に配布する絵本を使っただくさんの読み聞かせが行われるよう、理論と実践を積んでいってもらいたいんです。読み聞かせを普及させてきた他国のノウハウを活用できると思います。文化的・地域的な背景を理解する現地職員が力をつけていますね。

三 今後、憲法や法律などを主要な7少数民族言語で訳して出版し、図書館に備えたいという意向が政府にはあります。民主化を進めていく上で、民族言語で伝えることが大切という認識に変化しています。

八 最近のタイでは絵本と若者向けの出版が飛躍的に伸びています。周辺国の得意分野を各事務所

で補充しあっていけば良いですね。

ミャンマーの児童図書出版状況は？

中 情報省出版公社によると、2011年に発行された書籍は8000タイトル以上ありますが、子ども向けの本はわずか82タイトルほどと、質も量もまだまだという現状です。ミャンマー作家協会と協力し、児童図書作家やイラストレーターの育成と合わせ、児童図書改善に向けて活動してい



長期休み、開館直後から子どもが公共図書館へやってきますが、ぼろぼろの漫画本が大半です。



夜間小学校に来るのは、昼間は仕事をしている子どもたち（写真はゴミ集め）

きます。絵本コンテストを行い、優秀作を出版する計画です。

この事業には、日本からの専門家による研修、また他事務所のこれまでの経験を投入していただきたいと思います。（コラム「絵本コンテスト」）

三 出版した絵本は情報広報局を通じて、県市村落の図書館へ配布します。

絵本は出版公社が印刷することになっており、自立発展性も見込めるところも良い点です。

3月からの赴任にあたって。

八 赴任する人にとって、環境は厳しいところです。停電が日常茶飯事であり渋滞もひどく、家賃の高騰が進んでいます。気

候・文化・電気事情も含めて、他国とはかなり事情が異なります。**三** 昨年、事業形成のための調査に同行された秦理事は「昔のバンコクもこんな状態だった」と懐かしんでおられ、古いアジアの雰囲気が残っている国だといえます。中原さんがいまままで重ねてきた、難民キャンプでの事業運営・イ

中心とし、彼らの文化や考え、価値観に理解を深めてきたつもりですが、ミャンマーの方との事業は初めてなので、正直、わからないことが多いです。これから難民の帰還が本格化していく中で、まずはシャンティとして、活動実績を作り、関係省庁とのより良い関係を作っていくことを念頭において、しっかり事業を行っていく決意です。

三 情報省副大臣が、「シャンティに期待しているのは、アジア的な価値に基づいた支援、他国での図書館活動の経験の共有だ」と言っておられましたね。

中 シャンティの各国事務所と連携をし、図書館活動の経験が豊富な、それぞれ別の国の現地採用の

絵本コンテスト

質の高い絵本は数が限られているため、絵本・児童図書作家やイラストレーターの育成が重要です。絵本出版活動を通じて、多くの絵本を図書館に配布することも必要です。

シャンティはミャンマー作家協会と共催で、2014年からの3年間に絵本コンテストを行い、受賞作品を出版して公共図書館に配布します。初回テーマは「家族」です。少数民族地域を含む全土から申込みを受け付けますので、どのような家族の姿を描いた作品が届けられるか、期待しているところです。

募集要項も完成し、5月から新聞や雑誌にて募集を開始しています。9月中には受賞作品を決定、10月に発表セレモニーを行う予定にしています。その後に編集・印刷にかかります。来年早々には児童図書作家、イラストレーター、編集者への研修を開催する予定です。

民主化推進に向けた人材育成支援は、現在のミャンマーにはとても重要な取り組みです。絵本を通じて、少しでも多くの子どもたちに未来を届けたいと思います。（中原亜紀）

業運営・イギリスへの留学・東京事務所での海外事業課長経験のすべてが活かせるフィールドになりますね。

中 シャンティの各国事務所と連携をし、図書館活動の経験が豊富な、それぞれ別の国の現地採用の

スタッフから、知識や経験をぜひ共有してもらいたいと考えています。スタッフのモチベーションを上げることにもつながり、海外事務所に良い影響を与えられるでしょう。

八 長年のシャンティの実績に加えて、欧米ではなくて同アジアの団体であること。そして仏教精神の背景や哲学があることが評価されています。活動を図書館に特化していただけたら幸いです。

中 ミャンマーでも、地方の子どもがおかれている教育環境は本当に厳しいので、日本の皆さまのご支援をお願いします。ぜひ一度ミャンマーへいらして、現状をご覧ください。ただただと願っています。

（2014年2月28日
東京事務所にて）

BOOK GUIDE



ミャンマーを知るための60章

田村克己、松田正彦 (明石書店)
ミャンマー専門家、ミャンマーに長期滞在した日本人、また日本に留学や仕事で長く暮らしているミャンマー人の執筆者等69人が、各々の経験と知識に基づいてミャンマーを紹介する一書。ぜひ手元に置いておきたい。



ミャンマーの柳生一族

高野秀行 (集英社)
民政移管前にミャンマー国内を旅した冒険家のノンフィクション。「ミャンマーは武家社会」と日本の江戸時代になぞらえ、旅行会社スタッフ(柳生一族)と共に国内を珍道旅行。笑い炸裂の旅記でありながら、ミャンマー社会の様子もよく分かる。



TRANSIT 20号 美しきミャンマーの宝もの

ユーフォリアファクトリー (講談社MOOK)
有名都市のみならず、少数民族地域やビーチに至るまでミャンマー全土の魅力が豊かな写真と紀行文で紹介された一冊。さらに、文化や歴史、政治、古い等の多様なコンテンツもイラストを交えて紹介されている。入門書としてもおススメ。



北ビルマ、いのちの根をたずねて

吉田敏浩 (めこん)
ミャンマー(ビルマ)最北部、中国と国境を接するカチン州。ここで三年間、カチン民族解放軍と過ごした著者が渾身の力で書きつづった「自然の中で人間の生と死のつながり」。森から生まれ森に死にゆく命の流れを追う、北ビルマ辺境紀行。



物語 ビルマの歴史

—王朝時代から現代まで
根本敬 (中央公論新社)
著者はビルマ近現代史専門家。王朝時代に始まり、イギリス植民地時代や日本軍による占領期、軍政期、そして2011年の民政移管後までの国の変遷について、丁寧かつ網羅的に記述。歴史の流れを汲むことで、現在の国家情勢がより深く理解できる。



ビルマの少数民族

—開発、民主主義、そして人権
マーティン・スミス (著) / 高橋 雄一郎 (訳) (明石書店)
イギリスの専門家による、ミャンマー(ビルマ)の民族紛争と人権侵害の歴史と実態。少数民族に対して何が行われてきたか、平和のために何をなすべきかを深く考えたい方に。

コラム

タイ国境地域のいま

ミャンマー(ビルマ)難民事務事務所長
小野豪大(おの・たけひろ)



タイ側の難民キャンプ住民の本国帰還に関する考え方、それに向けたシャランティの取組み、課題などをまとめてみました。

ミャンマー民主化の影響を受けて

ミャンマーでは2011年以來、テイン・セイン大統領の主導による「民主化」プロセスが推進されています。日本を含む多くの援助国が社会・経済開発に乗り出す一方、民主化の最大の課題は、少数民族武装勢力(全日勢力)との「停戦実現」と「政治対話」にあると言われています。早期に全勢力との停戦合意が実

現され、難民・避難民の帰還問題、武器回収や地雷撤去の問題などが議論される政治対話ステージへの移行が期待されています。

本国帰還の可能性

難民キャンプにおける本国帰還に関する動きは確実に始まっています。自治組織であるカレン難民委員会のメンバーもカレン州政府との会合に招かれ、定

住候補地などの情報も手に入れています。しかし、地雷撤去、住宅確保、食料援助、雇用・教育機会など、安全に生活再建ができる要件はまだ整っておらず、同委員会の公式見解は「時期尚早」。一方、個別に自分の生まれ故郷の状況や残してきた財産を確認しに出かける人たちが増えています。

世代によっても本国帰還に関する見解はまったく違います。第一世代は本国に対する郷愁を十分持ち合わせ、安住の地が確保できれば戻りたい人たちです。しかし、難民キャンプ生まれの第二世代にとっても、ミャンマーは本国とは言い難く、むしろ外国に行くような心境。実質的な学校教育が受けられるかどうか、最も大きな関心事です。世代間の格差以外に、難民登録証の有無、民族・言語グループの相違、教育・職業経験の差異に

よっても、本国帰還に対する考え方が大きく変わります。更に、そんな彼らが家族・親類、町内といった単位で移動しなければならず、その岐路の選択の難しさは並々ならぬものがあります。

国際社会も後押し

国際社会の政策変更も確実に本国帰還を後押ししています。2005年から本格化した第三国定住の6割以上を受け入れてきた米政府は、昨年来公式な集団定住受入を終了したため(個別の家族合流ケースなどは残る)、出発者の数は激減しています。また、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)や国際NGOを通じたキャンプの社会サービスに資金提供してきたEU(欧州連合)及びEU諸国も難民に対する援助額を大幅に減額、ミャンマー国内支援を増額しており、とりわけEU加盟国の国



①夏になると、本堂前の池と鉢に蓮が咲く
②伺った4月は牡丹の季節 ③坂本観晃さん

●天台宗知行院
東京都世田谷区喜多見5-19-2
電話03-3417-3456

●厄除不動大護摩供
毎月28日

●アクセス
小田急線・成城学園前駅下車。
次大夫堀公園バス停から徒歩3分



8 東京都世田谷区 知行院

日本 しゃんてい の旅



発祥は室町時代末期と伝わる知行院、昔から多摩川と湧水に挟まれ、水に恵まれた豊かな土地だったそう。江戸幕府より寺領8石2斗の御朱印状を拝領していました。東京オリンピック以後、住宅の建設が進みましたが、ここは古墳や民家園に囲まれる静穏な雰囲気です。先代住職の坂本観晃さんには2009年に退任されるまで、長くシャンティの理事を務めていただきました。難民支援のため訪タイの際、同じ航空機に松永名誉会長と乗り合わせ、サケオ難民キャンプを訪問したの

がシャンティとの機縁だったそう。現在は、天台聲明音律研究会会長として、聲明のコンサートに出演、後進の指導に当たっておられます。敷地内の子どもひろばを少年野球の練習に開放し、子供会の行事もおこなう、地域の中心になっっているお寺です。本尊は薬師如来。関東百八地藏霊場の9番。境内には春は牡丹、夏は蓮、秋は菊と、美しい花々が咲いています。参拝の後、成城学園前駅近くのカフェでティータイムも楽しめます。

「将来に備える情報サービス」を担う図書館
現在、シャンティはタイ国境の7つの難民キャンプで21館のコミュニティ図書館の運営をサポートしています。前述のような状況変化に合わせて、図書館



①コミュニティ図書館は、絵本の読み聞かせや人形劇など、地域住民に親しまれています
②他の民族の文化に触れる機会になる「難民子ども文化祭」
③帰還に関する情報も載せるコミュニティ図書館の掲示板

重要なことです。UNHCRとCCSDPT(タイ避難民サービス調整委員会、国際NGOの連合体)とも協力しながら、関連図書配架はもちろん、掲示板情報の更新、PCによるデジタル情報サービス

などを通して貢献しています。難民たちの願い
今年から本格化するミャンマー事務所による読書推進事業は、難民の帰還が想定されるカレン州では展開していませんが、難民たちの定住先でのシャンティの関わりに期待が寄せられています。3月、各キャンプの四半期会議に参加した際、私は各地でほぼ同様の質問を受けました。「たくさんの不安を抱えて

自立生活をする私たちの帰還先で、生きる知恵を得られる図書、憩いの場である図書館があるのか。そこに隣人としてシャンティの人たちがいてくれるのか」。この「移動する図書館利用者」にシャンティはどのように対応するか——タイ国境からミャンマー側に出された大きな宿題だと感じています。

際NGOの体力が下がっています。具体的にキャンプ住民への食料配給基準見直し、減額・自活の促進であり、住民たちは現在の生活にさえない大きな不安感を抱く状態を呈しています。

の役割も「将来に備える情報」を提供することにも焦点を当てています。「将来」とは主に「本国帰還」のことなのですが、できるだけ帰還に対する広範で公正な情報を提供することによって、イメージを豊かにして、自ら主体的に意思決定することが重要です。UNHCRとCCSDPT(タイ避難民サービス調整委員会、国際NGOの連合体)とも協力しながら、関連図書配架はも

た。「たくさんの不安を抱えて

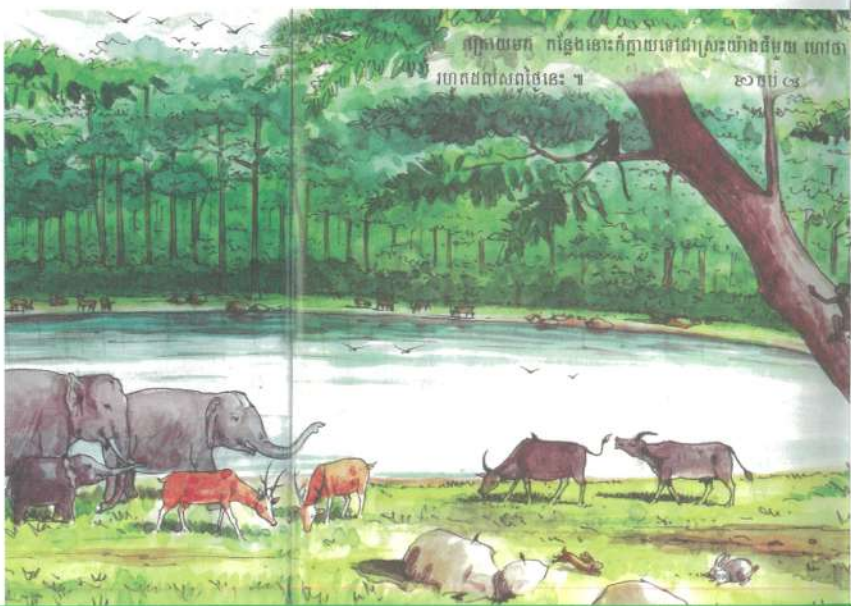


4
 けらいは木をぬいて
 土をほりましたが、
 まほうでかくれたふたりは
 見つかりませんでした。

5
 森のなかに大きなあなが
 のこりました。



6
 やがて、そこは大きな池になりました。
 みんなが知っているイヤック・ラオム池は、
 こうしてできあがりしました。



7
 むかしむかし、
 巨人の王がいました。
 そのむすめは国で
 いちばん美しく、
 体からいい匂いがする
 お姫さまでした。



イヤック ラオム池

世界の絵本を読んでみよう⑦
 民話絵本 カンボジア
 (2004年出版/2013年再版)

2
 ある日、まほう使いのたび人が
 巨人の国につきました。
 「なんて、いい匂いだらう」
 まほう使いはお城にいるお姫さまを
 見つけました。
 「ぼくとけっこんしてください」
 「いいわ」
 お姫さまとまほう使いは
 お城からにげだしました。



3
 巨人の王さまはおこって、
 けらいをつれておいかけました。
 「ここにふたりが
 かくれているかもしれない」
 けらいは木をひっこぬき、
 お姫さまをさがしました。



シャンティな人たち

शांति

vol. 65

糸賀一峰
いとが・いっぽう

いずも曹青
ボランティア委員長

大野道源
おおの・どうげん

いずも曹青
前・ボランティア委員長



いずも曹青（曹洞宗島根県第2宗務所青年会）は、80年代から長くカンボジアの支援に取り組んでいたにいたっている団体です。ボランティアに取り組む姿勢など、お話しを聞かせていただきに、夫道湖を臨む雲松寺に伺いまし

いずも曹青は会員が50人ほど、広報委員や法話の研修、フリーマーケットを企画する委員など、部会を作り活動を活発に行っている。ソフトボールなど交流も盛んで、寺族もフリーマーケットなどイベントに協力し、教区を越えた横のつながりが生まれている。

ボランティア委員は募金活動を行い、シャンティのカンボジア絵本・紙芝居の出版に協力いただいている。東日本大

震災の復興支援で被災地に赴き、2013年夏、山口県島根

県西部豪雨水害でもボランティアに取り組んだ。ワクチンのため、地道にエコキャップを集める「キャップ作務」など、メンバー全体で参加できるような仕組みを作っている。

「時代によって変わるものもあるが、先輩から引き継いでものをいい形で伝えていきたいと考えています。ボランティアは幅が広く、始めると止められない面もあり、どこを区切りにするか、一度いただいたご縁を切ってしまうと良いのか、葛藤している面もあります。長い目で取り組んでいくことが必要ですね」

と、昨年からボランティア委員長を勤める糸賀さんが、取り組みの難しさを語ってくれた。

それは、前任の大野さんも同意見だという。

「委員は2年に1回替わるが、他の活動と違って、ボランティアはころころと変えていくものではないですね。続けていくことの大切さと難しさを同時に感じますが、『またカンボジアか』と言われるくらいでいいのかと考えていますね」。

僧侶が取り組むボランティアの意義についての見識である。「我々の活動はすべてが寄りそうというスタンスです。それがカンボジアであったり、大震災の被災地であったり。また寄りそうためには、無知であってはいけませんし、自分たちのレベルを上げていくことが必要です。僧侶としてのスキルアップにつながるのです」。

今、ボランティア委員で力を

入れているのは、災害に的を絞ったセーフティネットの確立。

「いずも曹青版災害マニュアル」を作りたいと考えています。地域のお寺がなれを持っていてか、調査してまとめる。災害はいつ起きるかかわからないですし、島根には原発があるんです。避難ルートは自治体が策定してあるのですが、わかりにくい。分散してしまっている情報を1冊にまとめたいですね」。

「いずも曹青が結成10周年に校舎建設を支援したカンボジアの小学校にも、訪問したいと考えていたのですが、東日本大震災が起こってしまい、まだ実現していません。行きたいですね」。

地域にも海外の問題にも広い視野を持って取り組む、その精神が組織に根づいて続いていることに心強く感じて雲松寺を後にした。

（広報課 清野陽子）



① 寺族の協力のもと、フリーマーケットも盛会
② 2013年豪雨被害にあった島根県西部で泥かきボランティア

シャンティからのお知らせ

「国際識字デー」イベントを開催します

「国際識字デー」(9月8日)にちなみ、シャンティでは今年も日本ユネスコ協会連盟(NFUAI)、ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)と共催で、イベントを開催します。詳細は7月にシャンティのホームページでご案内します。ぜひご来場ください。

日時:9月5日(金)夜

会場:東京都渋谷区役所 女性センターアイリス

「本で寄付するプロジェクト」に名称を変更しました

読み終わった本で教育支援ができる「リサイクル・ブック・エイド」が、4月から「本で寄付するプロジェクト」と名前を変えました。仕組みは今までとおりです。自宅や職場で不要になった、本、漫画本、ゲームソフト、CD、DVD、ゲーム機本体をダンボールにつめて、シャンティへお申し込みください。送っていただいた本などは、ブックオフに運ばれ、その査定額+10%が寄付となります。(詳細は同封のチラシをご覧ください)

人事のお知らせ

●退職

竹谷麻莉子 契約職員。ラオス事務所 図書館および学校教育支援事業担当(4月30日付)

能野秀美 契約職員。国内事業課 クラフト担当(4月30日付)

●職務形態変更

金沢幸枝 契約職員。山元事務所 移動図書館運行リーダー補(4月1日)

※パート職員から契約職員へ変更となります。

お詫びと訂正

「シャンティ」274号(2014春号)に誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。

●8ページ 17行目

(誤) 本事業は、ジャパンプラットフォーム、日本教職員組合、アフガン寺子屋プロジェクトinしまねからの支援を受けました。

(正) 本事業は、ジャパン・プラットフォーム、アフガン寺子屋プロジェクトinしまね、123ホールディングス株式会社からの支援を受けました。

●11ページ 11行目

(誤) 市内で染物屋を営む西内さん、手芸はお手の物です。

(正) ご実家は市内で染物屋を営む西内さん、手芸はお手の物です。

関係者のみなさまにご迷惑をおかけいたしましたことを、深くお詫び申し上げます。

編集後記

ついにクーデターまで発展したタイの政局。『バンコク燃ゆ』は朝日新聞社前アジア総局長の柴田直治さんが現場の取材を基に書かれています。現在のクーデターに至った背景、「何故クーデターが」、「何があったのか知りたい」人にお薦めの一冊です。(清野陽子)

シャンティ 2014年夏 276号

2014年7月1日発行

発行人 若林恭英
 発行所 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
 〒160-0015東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
 TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
 WEB: <http://www.sva.or.jp> E-Mail: info@sva.or.jp
 郵便振替 00150-9-61724

編集人 関尚士
 装丁・レイアウト 矢萩多聞
 印刷 株式会社大川印刷 [定価550円]

©2014. Shanti Volunteer Association. All Rights Reserved. Printed in Japan.

●当会へのご寄付は、所得税、住民税および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。

これがワタシの
チカラになる!



スタッフの昼ごはん



図書館事業スタッフ
ネインさん

図書館事業スタッフ
トータさん

事業調整員
本丸さん

ミャンマー事務所の職員さん。
今日の昼ごはんは
なんですか?

所長 中原さん

カヤンジンジー
トゥツ
トマトとライム
のサラダ

バズン・コーピヤ
ンジョー
えび巻き

ナンジートゥツ
米の太麺に鶏肉、
玉ねぎ、天かすな
どで油で和
えた種料理

ラベットゥツ
食べる(1)お茶
サラダ

ランチは、外で買ってくることもあればお弁当の日もあります。ミャンマー料理は油っこいと言われていますが、トマトや玉ねぎなどを使ったさっぱりしたサラダも豊富にあります。外出をすると、たちまち汗がぐっしょりになる気候なので、ライムジュースを飲んで疲労回復します!

私は図書館スタッフとして3月末からシャンティで働き始めました。事務所開設後の備品の調達を手伝ったり、ピー県の各公共図書館を訪問して活動内容の打ち合わせを行ったりしています。仕事の時間はとても充実しています。私の本名「ネインエイトゥ」はミャンマー語で「平和」という意味です。ピー事務所の壁の緑色もミャンマーでは「平和」を象徴しています。始まったばかりのピー事務所から、平和を広げられるように一生懸命がんばります!(ネイン談)



စာ:နို့ကောင်းစာပွဲ

サーロオ・ガウンデー (おいしいよ)



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。

道

家庭も貧しく、
電気も通じていないため、
バッテリーで発電させた
薄暗い光の教室で、
子どもたちは学んでいます。

ミャンマーの文化に学び、
ともに成長する

副会長 神津佳子（ごんづかよこ）

「民主化に向けて取り組んでいるこの時期に、シャンティのご支援は、民主主義と社会の発展に寄与する意義ある活動です。ご協力に心から感謝します。3年間の事業が確実に実行されるように、情報省は力を尽くします」。

昨年の11月、ミャンマー政府情報省とシャンティ間のMOU（覚書）署名式で、ミャンマー情報省副大臣がおっしゃった言葉です。

若林恭英会長、倉科利行理事（写真）と共に、まずはヤンゴンにある作家協会、ミャンマー識字資料センター、カレンバプテスト教会を訪問しました。衛生生活改善、能力強化教育、識字

教材開発、収入向上プログラムの現状を職員、関係者からヒアリング、意見交換させていただきました。

ヤンゴンから車で5時間かけて到着したピー県では、学校に行けなかったり、退学した10歳から14歳の子どもたちが学ぶ夜間学校や地域学習センターを訪ねました。付近の村は、タイにあるミャンマー（ビルマ）難民キャンプより住環境が整っていないと感じられたほどの暮らしぶり。家庭も貧しく、電気も通じていないため、バッテリーで発電させた薄暗い光の教室で、子どもたちは学んでいます。ここではシャンティの支援によって、学校教育の範囲が広がることが期待されていました。ピー県にある、孤児院に併設された女子小学校の校長先生は、子どもたちに対する慈愛の笑顔が美しい尼僧でした。親にすて

られたり、戦争で孤児になってしまった子どもたちが、ここで生活しています。教室は、木の柱にトタン屋根、レンガの上にごザを敷いただけの土がむき出しの床。政府、NGOからの支援はなく、海外に住むミャンマー人などの寄付に頼っており、教室、宿舍、トイレの建て替え、十分な水の供給が求められている状況でした。

中原亜紀所長のもと、いよいよミャンマー国内にシャンティ事務所が開設されました。「共に生き、共に学ぶ」ことを大切に、アジアで33年間教育文化支援活動を展開してきたシャンティが、ミャンマーの文化に学びながら共に成長し、教育文化の発展のために寄与していきたいと実感した訪問でした。

（有限会社ケイアンドアイ代表取締役社長）

